

# 日刊建設工業新聞

オオバは10日、12年6月に公表した16年5月までの中期経営計画を見直した。公共投資関連の事業環境が変化したことによると加え、2020年東京五輪の開催決定なども踏まえて数値目標を上方修正。再生可能エネルギーや農業などの分野の事業拡大、海外展開の加速にも取り組み、16年5月期

## 業績目標を上方修正

オオバが中期計画見直し

**業績目標を上方修正**

## オオバが中期計画見直し

オオバは10日、12年6月に公表した16年5月までの中期経営計画を見直した。公共投資関連の事業環境が変化したことにより、2020年東京五輪の開催決定などを踏まえて数値目標を上方修正。再生可能エネルギーや農業などの分野の事業拡大、海外展開の加速に取り組み、16年5月期は、震災復興と国土強靭化、街づくり業務代行の3分野で、7億円（当初計画126億円）、営業利益7億円（3億70百万円）などの達成を目指す。

同社は、国内外で良好な市場環境が見込める今後数年間を「持続的成長」のための事業基盤の再構築期間」と位置付ける。主力の街づくり業務による収益の向上を図る。

オオバは中期計画見直しとともに、業務収益の向上を図る。

（きょうじん）化、街づくり業務代行の3分野で攻勢をかけるとともに、街づくり関連の業域拡大に取り組む。このうち業務代行は、蓄積した経験とノウハウ、保留地の処理を念頭に、リノベーションによる施設やインフラの整備に管理しながら、組織的に取り組む。

新事業領域の注力する。東京は事業開拓に戦略的に取り組む。輪後を見据えたプランを関係者とする。公共施設の一つも有望分野の一つに付ける。自治体による施設やインフラの整備に管理しながら、組織的に取り組む。

開拓にも 五輪関連	提案の強化▽環境技術を用いた街づくり、大規模施設跡地や空地の利用転換業務の展開▽防災・減災業務の拡大と専門技術力の強化――などを列挙した。まちづくり業務でのパワフル化――などの協業を検討する。
的的な施策	通信技術（ＩＣＴ）を活用した生産性向上▽ＣＭＳ（内容管理システム）による情報発信の効率化▽業務の拡大と専門技術力の強化――などを列挙した。まちづくり業務でのパワフル化――などの協業を検討する。
、提案活	街づくりほか、五つに位置する維持管理を総合して都市の活性化を進める。
ルマッピング（MMS）	災コonsalの推進▽情報技術（ＩＣＴ）を活用した生産性向上▽ＣＭＳ（内容管理システム）による情報発信の効率化▽業務の拡大と専門技術力の強化――などを列挙した。まちづくり業務でのパワフル化――などの協業を検討する。
した技術	16年5月期の連結業績と拠点新設を進める。

目標は△売上高147億円。売上高の内訳は△経常利益7億円△純利益6億50百万円、事業ソリュ

ーション部門が16億50百万円としている。